

小学校第5学年 体育科学習指導案
G 保健 (2)けがの防止

5年生担任 武本 倫太郎

日 時 令和4年9月16日(金) 2校時(9:55～10:40)
場 所 5年生教室
学 年 第5学年 (男子7名 女子5名) 計12名
単 元 名 けがを防いでハピネスに ～自分の身は自分で守る～

単元の概要

○児童の実態

本学級のけがによる保健室利用者は、7月までに13件あり、ひとり当たりのけがの数(けがの件数/学級の人数)は1.08(13/12)である。これは1年生(1.72)、2年生、3年生(ともに1.25)に次ぐ数であり、近接学年の4年生が0.5(5/10)、6年生が0.45(5/11)であることを鑑みても、けがの多い学年と言える。また、本学級の児童が4年生であった昨年10月の保健室利用は16件あり、全体の3割を超えていたことも分かっている。

事前アンケートでは、「教室」「廊下・階段」「遊具」のどの場所においてもけがをしたことがある児童が多く、半数の児童が校内や登下校中に「けがをしそうになった」経験があることも分かっている。交通事故に遭った(遭いそうになった)経験は少ないが、全員が自転車を所持し、日常的に使用していることも分かった。その他、擦り傷、打撲、火傷の手当ての方法を知っている児童がいる一方、「わからない」と答えた児童や民間療法を手当として答える児童がいる。

〈けがへの意識についての事前調査結果〉

項目	はい	いいえ
学校でけがをしたことがありますか。	12	0
学校の教室でけがをしたことがありますか。	9	3
学校の廊下や階段でけがをしたことがありますか。	8	4
学校の遊具を使ってけがをしたことがありますか。	10	2
今まで、学校でけがをしそうになったことがありますか。	6	6
登校中にけがをしたことがありますか。	5	7
登校中にけがをしそうになったことありますか。	5	7
交通事故に遭ったことがありますか。	1	11
交通事故をしそうになったことがありますか。	1	11
犯罪の被害に遭いそうになったことがありますか。(ゆうかい、知らない人に声をかけられるなど)	1	11
自転車を持っていますか。	12	0
自転車で遠いところまで遊びに行くことがありますか。	8	4

項目	主な回答
どんな時にけがをしそうになりましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・階段を降りていたら、走ってきた人とぶつかりそうになった。 ・うんていをしていたら手が滑って落ちた。
知っているけがの手当ての方法を1つ挙げて記入してください。	<ul style="list-style-type: none"> ・擦りむいたときには傷口を水で洗って消毒し絆創膏を貼る。 ・やけどをした時には冷たいもので冷やす。 ・足を打って腫れたときには保冷材などで冷やす。 ・きずぐちにわかめをぬる。

○指導上の留意点

【題材の設定】

- ・学校で過去に発生したけがのデータを用いて、学習の動機づけを行う。
- ・通学路の安全マップを利用することで、実生活につなげて考えられるようにする。

【ICTの活用】

- ・教科書のデジタルコンテンツを利用し、危険の潜む場所を見つけることで具体的に危険が潜んでいる場所を認識させる。

【養護教諭とのTTによる指導】

- ・第5時のけがの手当ての授業を養護教諭とのTT体制で指導することで、けがの手当てと対応を実践的に学べるようにする。

【保健の見方・考え方 しる・さぐる・みつける(みつめる)・する の視点の設定】

- ・保健の見方・考え方を、しる さぐる みつめる・みつける する で整理した。単元を通して見方考え方をはたらかせられるように、授業計画に組み込んで、児童と共有しながら授業を展開していく。

④ <u>しる</u>	健康上の課題について知る。
⑤ <u>さぐる</u>	情報を選択し、課題を解決の方法を探る。
⑥ <u>みつめる</u> ・⑦ <u>みつける</u>	自分の生活を見つめ、健康に過ごすためにできることをみつける。
⑧ <u>する</u>	みつけた方法を実践して生活する。

○カリキュラムマネジメント

本学級では、昨年度の保健室利用の状況や、学校行事と関連させ、9月、10月を『健康ハピネス期間』として設定し、けがの防止にむけて取り組んでいる。『健康ハピネス期間』には他教科や特別活動と本単元の内容を関連付けて指導を行う。

月	各教科等		保健	特別の教科 道徳	特別活動・ 学校行事
	総合的な学習の時間	その他教科			
7	チャレンジ民泊		けがを防いで ハピネスに ～自分の身は 自分で守る～		
8					夏休み
9		理科 台風と気象情報		自分の身は自分で守る(節度・節制)	特別活動 生活習慣を見直そう
10		理科 雲と天気の変化 社会 自然災害を防ぐ		いこいの広場 (善悪の判断・自律, 自由と責任)	山県郡陸上記録会

健康ハピネス期間

○ 単元の見目

- (1) けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当てをすることができるようにする。
(知識及び技能)
- (2) けがを防止するために、危険の予測や回避の方法を考え、それらを表現することができるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) けがの防止について、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組むことができるようにする。
(学びに向かう力、人間性等)

○ 単元の評価規準

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
<p>①事故やけがの要因には、人の行動や周りの環境が関わっていることを言ったり書いたりしている。</p> <p>②交通事故を防止するには、身の回りに潜む危険の予測と的確な判断のもとに、危険を回避し安全に行動することや、環境整備、交通ルール作りが必要であることを言ったり書いたりしている。</p> <p>③犯罪被害の防止には、まわりの環境を点検し犯罪が起こりやすい危険な場所を避けること、すぐに助けを求めるなどの確な判断のもとにあんぜんにこうどうすることが必要であることを言ったり書いたりしている。</p> <p>④けがなどの簡単な手当てはケガなどの重篤化を防ぎ回復を速やかに行うことが必要であることを、言ったり書いたりするとともに簡単な手当てができる。</p>	<p>①けがの防止について課題を見付け、その解決に向けて考えることができる。</p> <p>②けがの防止について考えたことを説明したり伝えあったりしている。</p>	<p>①学習内容に関心を持ち、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に粘りづよく取り組もうとしている。</p> <p>②他者の考えも受け入れながら進め方を工夫改善するなど、自らの学習を調整しようとしている。</p>

○ 指導と評価の計画

指導と評価の計画(第5学年)保健								
単元名		けがを防いでハピネスに ～自分の身は自分で守る～						
学習のまとめ		事故やけがの発生要因	事故やけがを防止するために		けがの手当て			
時数		1	2(本時)	3	4	5		
一時間の学習の流れ	0	導入	1 オリエンテーション・知る 昨年度に校内で発生したけがの数を 知る。	1 知る 全国の学校で発生するけがの数を 知る。	1 知る 小学生の交通事故による負傷者数を 知る。	1 知る どんな状況で犯罪が発生するか 知る。	1 知る けがの程度による判断の仕方を 知る。	
	5		2 めあての確認					
	10		展開	3 探る① けがの事例から事故やけがの原因を 探る。	3 探る① 事前に撮った写真をもとにけがをする 危険性のある場所について話し合 う。	3 探る① 交通事故を防ぐ環境整備がされている 理由を探る。	3 探る① デジタルコンテンツを用いて犯罪被害 がどんな場所で発生しやすいかを探 る。	3 探る① 軽いけがをした時のけがの手当ての 方法を調べる。
	15			4 探る② 「人の行動」「環境」の観点から学校 でけがをしそうな場所を探し、撮影 する。	4 探る② 安全マップから地域にあるけがの危 険性がある場所を探り、危険を回避 する方法を話し合う。	4 探る② 危険予測ワークを班で行い、見えない 危険から身を守る方法を見つける。	4 探る② 安全マップとイラストをもとに犯罪 被害を避けるための方法を話し合 う。	4 探る② 実際にけがをした場面を想定し、け がの手当てをシミュレーションす る。
	20			まとめ	5 見つける・みつめる・する 体育ノートによる振り返り			
25	5 見つける・みつめる・する 体育ノートによる振り返り							
評価計画	知・技	①(体育ノート)		②(体育ノート)	③(体育ノート)	④(体育ノート)		
	思・判・表		①(行動観察・体育ノート)		②(行動観察・体育ノート)			
	主体的	①(体育ノート・行動観察)				②(行動観察・手紙)		

本時の学習（本時 2/5）

○本時の目標

学校や地域でのけがの防止について、課題を見付け、その解決に向けて考えることができる。
(思考力、判断力、表現力等)

○本時の学習内容

	学習活動	○指導上の留意点 ◆「配慮を要する状況」と判断した児童への手立て	☆学習活動に即した評価規準 (方法)
導入	1 知る 小学生の学校生活でのけがの数を 知る。 2 本時のめあてを確認する。	○グラフの中から「どこで」「何をしているときに」けがが多いかに着目させ、昨年大朝小学校で発生したけがの状況と近いことに気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 大朝小けがゼロの道 学校や地域でのけがを予防するためには？ </div>	
展開	3 探る① 事前に撮った写真をもとにどんな危険性があるか、ホワイトボードに書いて発表する。 4 探る② 安全マップから地域にあるけがの危険性がある場所を探り、危険を回避する方法を話し合う。	○事前に撮影した校内の危険な場所を「なぜ危険だと思ったのか」「危険を防ぐにはどうすればよいか」という視点で整理させる。 ○「～の危険があるから、～と行動する」という考え方がけがを予防していることに気付かせる。 ○児童の発表をもとに、けがをしないためには、「危険の予測」「的確な判断」を共通して行っていることに気付かせ、板書にまとめる。 ○地域でも危険の予測と的確な判断がけがの防止に役立つことを確認する。 ◆状況が考えられない場合は「どんな行動をするとけがをするか」「どんな環境だとよりけがをしやすくなるか」という視点で考えさせる。 ○環境整備の必要性について教科書で確認する。 ○環境整備には子どもたちにできることと大人がすることがあることに気付かせる。	学校や地域でのけがの防止について、課題を見付け、その解決に向けて考えている。 【思考・判断・表現】 (行動観察・体育ノート)
まとめ	5 見つめる・する 本時の学習のまとめと振り返りをする。	○今日学んだことを「予測・判断・行動」という言葉を使ってまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> けがを予防するためには、危険を予測し、的確な判断のもとに、安全に行動することが大切である。 </div> ○これからの生活に生かしていきたいことの視点で振り返りを書かせる。	

板書計画と主な準備物

○主な準備物

けがの場所別発生件数のグラフ、ホワイトボード、危険個所を写した写真、安全マップ

